



THE ROTARY CLUB OF SADOWARA WEEKLYBULLETIN

佐土原ロータリークラブ週報

1995・96年度国際ロータリー・テーマ 国際ロータリー会長 ハーバート・グラハム・ブラウン



Act with Integrity Serve with Love Work for peace

〈本日のプログラム〉 世界理解推進月間

第 398 回 平成 8 年 2 月 23 日(金)

- 1. 点 鐘
- 2. ロータリーソング
「 奉仕の理想 」
- 3. 食 事 (百万\$の食卓)
- 4. 会 長 の 時 間
- 5. 幹 事 報 告
- 6. 各 委 員 会 報 告
- 7. 会 員 増 強 委 員 会
- 8. 点 鐘

(職業奉仕)

会 長 藤 堂 孝 一
副会長 斎 藤 芳 夫
幹 事 福 井 輝 文
会 計 中 武 靖 雄
会 報 委 員 長 垂 水 敏 雄

佐土原ロータリークラブ

例会日 毎週金曜日(12:30-13:30)

例会場 ホテル神宮寺 ☎0985-73-0015

事務所 ☎880-02佐土原町大字下田島7912

(株)福井工務店内☎0985-73-0291

第398回例会記録

(1996. 2. 16)

☆会長の時間

藤堂孝一君

皆さん今日は、本日は第398回例会です。2月11日(日)に串間市文化会館で宮崎県中部分区のI. M. が開催され、当クラブから福井輝文君、田村勝二君、濱田松太郎君、正岡文郁君、伊東忠寛君、梶田與之助君、吉田康一郎君、土屋光弘君、垂水敏雄君と私の10名が出席しました。

6時半に町役場駐車場に集合して出発したのですが、早く着き過ぎたので志布志の大黒屋まで足を延ばし、軽い朝食を済ませました。当日のマイクロバスの手配から往復の運転まで引き受けていただきました吉田康一郎君に厚く御礼を申し上げます。

I. M. のプログラムの中のミーティングでは、①『会員増強とクラブ活性化について』と②『財団について』の話合いがあり、①は正岡会員増強委員長に、②は濱田ロータリー財団委員に、それぞれ貴重なご意見を発表していただき、大変ありがとうございました。

会員数37名(佐土原クラブより5名多いだけ)の串間クラブが、創立7年目でこのように大きな会合を立派に開催された実力に心から敬服する次第です。

会場で会員増強に関する資料が配布されましたが、1995～1996年度の第2730地区会員増強目標数は合計で296名です。しかし、1996年1月

1日現在(上半期)の第2730地区の会員純増数は118名(入会者209名-退会者91名)で、目標数の39.9%にしか達していません。下半期における各クラブの会員増強への一層の尽力が要請されています。

佐土原クラブの場合は、設定した目標数3名に対してすでに2名の会員純増を達していますので、最低あと1名の増強が必要ですが、さらに目標を高くして、近隣クラブ並の会員数にまで量的にも充実しなければならないと思います。

☆幹事報告

福井輝文君

1. 例会変更通知

*都城中央RC 3月17日は創立10周年記念式典のため都城ニュークラブホールに変更

2. 高鍋RCより創立20周年記念式典の案内が来ています。

と き : 4月14日(日)

と ころ : 高鍋中央公民館

全員出席をお願いいたします。

3. 前週(2月9日)の例会は休会でしたが、4名の会員の方が出席され、食事(夕食)も多数準備してあったとのことです。公式訪問報告書の年間行事予定表を常に見ていただきませうお願いします。

4. 今まで例会時にお配りしていました週報、ロータリーの友、ガバナー月信、各種資料を、来週からは各会員の文書棚に入れておきますので、必ず文書棚から受け取って例会場に到着されるようにしてください。

☆出席報告

委員長 恒吉正志君

会 員 数	32名
H C 出席者数	24名
欠 席 者 数	8名
出 席 率	75%
メークアップ者数	4名
修正出席率	87.5%
欠 席 者 名	岩・林・松・河

本日のビジター

串間RC 佐野輝美君

西都RC 小倉敦男君

” 平岩七朗君

” 松浦重夫君

” 河野謙二君

☆国際奉仕委員会

について

藤堂会長より

本日は国際奉仕委員会の森田委員長及び委員の皆さんが、出張等で出席できませんので、初めに私からロータリーの国際奉仕の概念についてご紹介させていただきます。

ロータリーの手引書によれば、『ロータリーは先ず会員の親睦を目的に始まった。今から80年前の世界的に不況の時には、職業奉仕の旗を掲げて、商業道徳の高揚を目指した。第2次世界大戦後の好景気の時には、福祉社会建設のために社会奉仕活動を重点的に展開して行った。

現今の国際不安の情勢を迎えて、世界平和を推進するため国際奉仕志向に転じて来た。このように、国際社会の環境変

化に伴う人々のニーズの変化に即応して、進化を続けて来たのがロータリーの活力である。』とあります。

また、ロータリーの国際奉仕の目指しているものは、『奉仕の理想に結ばれた、事業と専門職務に携わる人の世界的親交によって、国際間の理解と親善と平和を推進する。』ことである、と明示されています。

そしてロータリーの国際奉仕は、概念上次のような四つの一般的分野に分類できると具体的に掲げてあります。

- (1) 世界社会奉仕活動
- (2) 国際レベルの教育的、文化的な交換活動
- (3) 特別月間と催し
- (4) 国際的な会合

国際奉仕活動は、単一クラブとか会員個人の力では自ずから限界があると思われませんが、地区レベルの世界社会奉仕プロジェクトに参加して、金銭的な援助をしたり、自己の国際理解と親善と平和への意識を深めることなどは、容易にできるのではないかと考えられます。

先般お知らせしましたが、新富町の長友さんから『ロータリー財団親善奨学生』への申請希望が出されています。

本年度の佐土原ロータリークラブの国際奉仕プログラムの一環として取り上げてみてはと思いますので、国際奉仕委員会で検討をお願いします。

なお、2月24日(土)に第2730地区国際奉仕委員長会議が宮崎市J A アムズホールで開催されます。

☆山脇 忍会員より

本日の宮崎日日新聞の地域発信コラムに、『国際理解の心を育てる』という寄稿（清武町・宮崎県婦国教師の会事務局 長岡本哲哉氏）が載っていました。

国際理解の根底に流れているものは、人間をあるがままに認め、共感をもって理解していくことではないかと考えて、「人間理解」という視点から小学校4年生の国際理解に対する学習を進められた岡本氏は、国際理解教育は特別なものではない、先ず自分の住む地域を知り、そこに住む人々を理解していくことから国際理解の心は育っていくのではないだろうか、と述べておられます。

国際奉仕とか世界理解とかいうことになりますと、非常に問題が大きくなりますが、そんなに大きくとらえなくてもいいのではないか、国際奉仕や世界理解は先ず自己理解から出発する。そして、地域理解から日本理解へ、さらに国際理解へと昇華するという考えです。

私は昭和42年頃パラグアイ（国土は日本とほぼ同面積で人口は200万人）、アルゼンチン、ブラジル、ペルー各国の日本人移住者の健康管理に巡回したことがあります。その地域の経済問題まで分析して、われわれ医療関係者は日本移住者の健康・発展のために何をすべきかを検討したのであります。

発展途上国のために学校や病院を建設することも大切ですが、一番効果があったのはロータリーが行ったポリオ・プラス運動でした。地球上から『小児麻痺・破傷風・麻疹・百日咳・結核』を根絶す

るために、それらの疾病に対する予防ワクチンを無償配布したことです。

初めに戻りますが、先ず自己の家庭の中から問題を取り上げ、次に佐土原町についての理解を深め、それから日本、そして世界……というように考えていけばよいのではないかと私は思います。

◇ ◆ ◇ ◆ ◇ ◆ ◇ ◆ ◇ ◆

I. M. 寸 播

○三戸サツエ先生の記念講演

『自然に学ぶ』より

幸島の猿の群にはボス争いが無い。
（どこかの国のように派閥や政権争奪はありません。）

今まで文化は中央から流れて来た。
美しい、豊かな自然が残されている宮崎県を日本中に、世界中に知らせよう。

○会員増強とクラブの活性化について

岩下哲夫カウンセラー

新会員に一日も早くロータリークラブに同化してもらうことが大切である。それには、新会員自らロータリーの勉強をしていただき、ロータリーの良さ楽しさを知る努力が必要である。

○RI財団について

今林重夫カウンセラー

RI財団活動には双方向性がある。一つは財団へ寄付をする活動であり、もう一つは財団寄付金を使う活動である。後者についての学習も必要である。